

丸亀支部国語部会

丸亀・南中 山田 真由子

1 研究主題

生きて働く力を育む国語教室

～言葉による見方・考え方を働かせ、深まる学び～

2 研究活動の概要

(1) 5月2日(金)

支部総会

- ① 研究組織の編成
- ② 研究主題の設定
- ③ 年間計画の作成

(2) 7月25日(金)

丸亀支部夏季研修会

- ① 11月の研究授業の提案(綾歌中)
- ② 11月の研究授業について情報交換
- ③ R7研究大会事前発表(西中)
- ④ R9研究大会へ向けての提案

(3) 11月12日(水)

丸亀市中学校総合教育研究会

- ① 研究授業
- ② 授業討議・指導
- ③ R9研究大会に向けての組織編制

(4) 12月3日(水)

まとめの会

- ① まとめ
- ② 今後の大会に向けての研究討議

3 研究授業と討議・指導

(1) 授業者・題材

丸亀市立綾歌中学校 大広 遥香 教諭
第3学年 「論語」

(2) 単元目標

- ・「論語」の一節を理解し、回答文に引用することができる。
- ・「論語」を読んで、社会生活や自分の経験と結びつけ、人間の生き方について自分の考えを持つことができる。
- ・自分が引用した回答文の一節と内容が適切

か考えて、その理由を分かりやすく伝えあおうとし、班員の回答文にも適切な助言をしようとする。

(3) 単元計画(6時間)

- ① 「論語」の内容を確認し、訓読の仕方を確かめる。(1時間)
- ② 「論語」を音読し、現代語訳を読み、講師の考え方を大まかにつかむ。(2時間)
- ③ 「論語」の言葉から、教師・友人の悩み解決につながる言葉を探し、回答文を作成する。(2時間:本時2/2)
- ④ 回答文に対して、返信をし、「論語」で学んだことを振り返る。(1時間)

(4) 学習指導過程

- ① 前時の学習を振り返る
- ② 本時の学習課題を知る。

学習課題

『論語』の考えをヒントにみんなの悩み解決策を考えよう!

- ③ 悩み相談の回答文を修正する。
 - (i) 自分の回答文を見直す。
 - (ii) 班で回答文を検討する。
- ④ 回答文を書き直す。
- ⑤ 振り返りをする。

(5) 授業討議

① ICTの活用

- ・話し合いもスムーズに行っていた。
- ・推敲が何度もできるのが良い。
- ・参観者にとっても、生徒のパソコン上のやり取りが、廊下のパソコンで見ることができ、授業内容がタイムリーに見られた。
- ・班によっては、個々で黙々とタブレットを見ており、話し合いが行われていなかったため、寄り添う回答になっていなかった。
- ・文字数が多い生徒は、タブレットで全体を見るのが難しかった。
- ・今回は、タブレット上での記述ばかりだったが、アナログと、デジタルの使い

分けをして、ノートや原稿用紙等にかかせ
る場面を作っても良かったのではないか。

・回答文の中に AI を使った人はどのくらい
いたのだろうか。ダメとは言えないが、今回
の授業意図と外れる。

(授業者より) 本の中から、回答に使用す
る論語を選ぶよう伝えており、AI で回答を
作った生徒はいなさそうである。あらかじめ、
授業者が AI を使った回答例を作ってみた。
生徒が考えた回答の方が分かりやすく、納得
できる内容であった。

② 教材準備について

- ・タブレットだけでなく、論語の本があっ
たことで、何回も意味を確認できていた。
- ・論語の中の「仁」の意味が分かっていな
い生徒もいた。論語の背景を知れたら、よ
り身近に感じられ、理解が深められると思
う。

③ その他

・同じ質問に、どのような論語を用いて回
答しているのか、比べてもよかったのでは
ないか。

・回答内容の検討をするチェックリストも
生徒が作っており、自分たちの基準で主体
的にチェックすることができていた。

・古典と自分たちの生活を近づけたいとあ
ったが、どこまで理解するのが目標か。

(授業者) 論語は、今の生活にも活用でき
たり、参考にできたりすると思えたら良い。

・振り返りの評価について、どのような言
葉があれば良いという基準はあるのか。

(授業者) 同じ論語を選んでも、解釈が違
うという比較が出来たら良い。

(6) 指導・助言

一田 幸子主任指導主事

(香川県教育センター)

・生徒全員が授業に向かっているという姿
が見られた。回答文の下書きも、内容に個
人差はあるが、全員書くことができていた。

・グループ内の対話もできていたが、しば

らく何もしゃべらず、それぞれがパソコン
の画面を見つめている班もあった。黒板に
何をするかの板書があったので、活動に入
る前に、目的を押さえると良かった。

4 研究の進捗状況

① 研究方針の決定

(1) 研究主題

「生きて働く力を育む国語教室
～繋げてきづく学びの石垣～」

(2) 研究の背景と目的

丸亀市では、「石垣プロジェクト」とし
て、子どもたちが思考と言語活動を通し
て自分の考えをもち、表現できる力を育
むことを目指してきた。この実践をさら
に発展させるために、今後2年間は、こ
れまで培ってきた思考力・表現力をどの
ように積み上げ、繋げていくかという視
点から研究を進める。

「石垣」は学びの比喩(メタファー)
として、子どもがこれまでに身に付けた
力をどのように次の学びへと繋げていく
かを可視化するものである。そして、そ
の石垣をより確かなものにしていくため
の工夫や支援を「足場かけ」と呼ぶ。

子どもが安心して学びを積み重ねてい
くために、どのような手立てが効果的か
を考え、各単元・各領域で実践を積み重
ねていくことが、本研究の目的である。

② 組織作り

(1) 研究部の組織編制

③ 三領域での「石垣カード」作成

④ 実態把握のアンケート作成

5 成果と課題

支部の活動として、今後の大会へ向けての
組織作りを行ったり、夏季研修や研究授業な
どの活動を行ったりすることができた。今後
の研究方針にあるように、生徒が学びを繋げ
るための支援「足場かけ」を意識した授業づ
くりを意識し、子どもたちが身に付けた力を
繋げていけるよう研究を重ねたい。